

★★★施工手順★★★

①舗装切断

1. センターリング治具取付

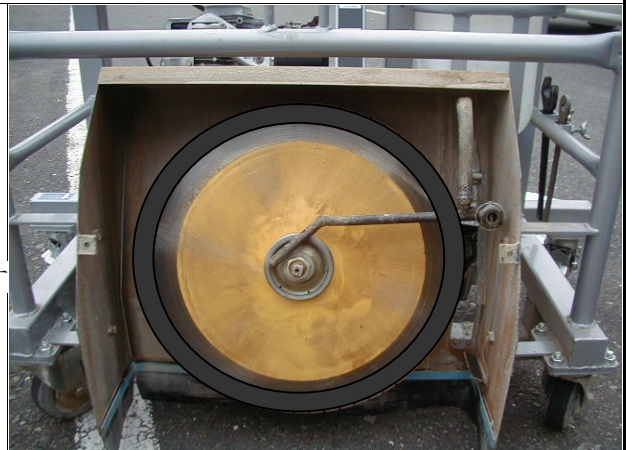
- 1) 鉄蓋の中心とセンターリング治具の中心を合せます。
- 2) 治具3箇所先端にある固定用穴にコンクリート釘を打ち、治具を固定します。
※コンクリート釘のサイズはL65mm程度



①舗装切断

2. 円形カッター準備

- 1) 円形カッターの切削径固定ブラケットを所定の位置にセットして下さい。
φ600鉄蓋⇒ブラケット上面が青色
φ900鉄蓋⇒ブラケット上面が黄色
- 2) 円形カッターに切削ブレードを取付ます。
ブレードはφ1050用とφ1280用の2種類あります
切削径に応じたブレードを取付けて下さい。
φ600鉄蓋⇒切削径φ1050用ブレード(青色)
φ900鉄蓋⇒切削径φ1280用ブレード(黄色)
※詳細は円形カッター取り扱い説明書を参照して下さい。



①舗装切断

3. 円形カッターセット

- 1) 円形カッターの中心とセンターリング治具の中心を合せ、ピンで固定します。
- 2) 円形カッターの給水容器に水が充填されていることを確認して下さい。



①舗装切断

4. 舗装切断

- ※1回当りの切削深さは、必ず5cm以内で行って下さい。
※最大切削深さは15cmです。
- 1) 切削ブレードを路面より5cm下げ、1回目の切削を行います。
 - 2) 順次、5cm毎にブレードを下げ所定の切削深さになるまで切削します。
 - 3) 円形カッター及びセンターリング治具を撤去し清掃を行います。



②舗装剥ぎ取り・鉄蓋撤去

1. 舗装切断後ブレーカー等で舗装版の破碎、剥ぎ取り、積込

- 1) エアブレーカー/電動ピック等で舗装版を破碎します
- 2) 舗装材を剥ぎ取ります。
- 3) 鉄蓋周囲の碎石、土砂等を除去します。
- 4) 鉄蓋固定用ボルト/ナットを外します。



②舗装剥ぎ取り・鉄蓋撤去

2. 周辺路盤掘削/鉄蓋撤去/調整部撤去

- 1) 鉄蓋を撤去します。
- 2) 調整モルタル部を撤去します。
- 3) 斜壁外周の土砂/碎石等を除去します。
- 4) 斜壁内面の壁面に付着している泥を除去します
- 5) 斜壁上面および舗装切断面を清掃します。



③あと施工アンカー設置

1. ハンマードリルで斜壁上面に削孔

- 1) 鉄蓋の開閉方向を確認後、受枠を斜壁上面に仮置きします。
 - 2) ボルト緊結用アンカー位置(3箇所)を決定します。
 - 3) ハンマードリルで削孔します。
- ※ドリルビットはφ22mmを使用します。



③あと施工アンカー設置

2. あと施工アンカーの取り付け

- 1) あと施工用アンカー(M16)を穴に入れます
- 2) あと施工アンカー上部に打ち込み用治具をセットします。
- 3) 石頭ハンマーで治具を叩きあと施工アンカーを固定します。



④緊結ボルト取り付け

1. M16緊結ボルト取り付け

- 1) あと施工アンカーにM16ボルトを締込み固定します。
- 2) ボルトスリーブを所定の長さに切断し、ボルトに挿入します。



・調整ボルトはぐらつかないように十分締め込んでください。



④緊結ボルト取り付け

2. AJフレームホルダ取り付け

メインホルダを装着します。
球面状を上にして入れてください。



・AJフレームホルダは3ヶ所全てに取付けてください。



⑤受枠設置

1. 受枠高さ調整

- 1) 蓋の開閉方向を確認し受枠を乗せます。
- 2) 路面に水糸等を張り、メインホルダを回しながら受枠の高さ調整を行います。

2. 受枠固定

- 1) 高さ決定後サブホルダの突起を受枠アンカー穴に入れます。
- 2) ナットを取付けレンチ等で締めこみ固定します。
- 3) 回り止め用キャップを確実に取付けます。
- 4) 路面より約50mm下がりの位置でボルト頭部をディスクグラインダーで切断します。



・受枠の最低調整高さは20mmです。
事前に調整高さの確認を行なってください。



⑤受枠設置

3. 内型枠装着

- 1) 内型枠を小さく丸めて受枠に入れます。
- 2) 内型枠を受枠および斜壁内周に張り付かせ装着します。



・内型枠と受枠または斜壁との間に隙間があればハイジスターが漏れるので完全に密着させてください。



⑥路盤材・調整部材打設

1. 鉄筋設置

- 1) 鉄筋の切り欠き部をボルト位置にあわせませす。
- 2) 鉄筋を受枠のフランジ 上面に置きます。



⑥路盤材・調整部材打設

2. ハイジヤスター打設

- 1) 計量カップ で外気温に合わせて水を計量します。
- 2) 計量した水をペール缶に入れます。
※標準水量は4.4L/25kg用です
- 3) 鉄蓋の外周および調整部にハイジヤスターを流し込みます。
- 4) ハイジヤスター上面が路面より約50mm下がりまで打設します。



⑦表層材打設

1. ハイジヤスター表面処理

- 1) ハイジヤスター表面に水がなく指で押しても凹まない状態を確認します。
養生時間の目安：約15～30分(冬は約30～60分)
- 2) ハイジヤスター硬化直後にハイジヤスター表面をワイヤブラシ付ディスクグラインダーで全面目粗しを行います。
- 3) 目荒し後、切粉をエア、ほうき等で完全に除去します。



硬化が進み過ぎると目粗し効果が薄れますので、硬化直後に目粗しをしてください。

⑦表層材打設

2. ハイジヤスター表面の水打ち

- 1) ハイジヤスター表面に水打ちを行います。
- 2) 受枠外周及び既設舗装内周面も洗車ブラシ等で清掃し水打ちを行います。



⑦表層材打設

3. 下地処理

- 1) 下地処理材を塗布します。
- 2) 加熱合材を打設する全ての面に行き渡るように塗布します。
- 3) バナーにて水分を蒸発させます。



⑦表層材打設

4. 加熱合材打設

合材を打設し、敷きならしをします。



⑦表層材打設

5. 転圧仕上げ

- 1) 加熱合材をラマーで、転圧します。



⑧道路開放

- 1) 完成。



9. その他の注意事項

1)ハイジスター表面処理(目粗し)について



ハイジスター表面部の目粗しは、表層材との接着強度を高める為、必ず行って下さい。
目粗しは施工手順書に示したようにハイジスター硬化直後にカップブラシで行うのを、標準とします。
また、目粗し後には必ず清掃を行って下さい。
上記、作業を行わなかった場合は、ハイジスターと表層材との接着不良を招き、クラックが生じる恐れがあります。
また、目粗しの程度は写真を参照して下さい。



2)凍結の恐れがある場合のハイジスター施工について



ハイジスターの使用可能な温度範囲は0～35℃に設定されているため、冬場の凍結の恐れがある場合は、寒中施工の考慮が必要となります。
これは、一般的なコンクリート施工の場合でも同様で、最低気温が0℃以下になるときは、凝結硬化反応が著しく遅延して、コンクリートが硬化前に凍結する恐れがあります。

(コンクリートの凍結温度)

条件によって若干異なりますが、およそ-0.5～-2.0℃と言われておりますので冬場の施工では注意を要します。

(凍結の恐れがある施工時の注意事項)

○材料

ハイジスターは期限内(4ヶ月)の物を使用し、使用直前まで可能な限り室内や車中で材料の温度が0℃以下にならないように保管してください。

○受枠・型枠

受枠、内型枠に冰雪が付着している場合は、お湯をかけて解かしてください。
また、一度解けた冰雪が再度凍結しないように布等で拭き取るか、早めにハイジスターを充填してください。

○水

熱い湯とハイジスターを混練した場合、混練不可または不十分で凝固する可能性があるため、ペール缶に投入する水の温度は必ず40℃以下にしてください。

○養生

保温・給熱養生とも材料が完全に硬化するまで実施してください。

3)高温時のハイジャスター施工について



ハイジャスターの使用可能な温度範囲は0～35℃に設定されているため夏場の炎天下の施工で気温が35℃を越える場合については注意が必要です。

(高温時に発生しやすい、または注意すべき現象)

- ハイジャスターの流動性低下
高温下での施工では流動性が落ち、充填不足になりやすくなります。
- 硬化時間の短縮
接触面の熱影響により、硬化反応が促進されるために硬化時間が短くなります。

(高温施工時の注意事項)

- 材料・水
使用直前まで可能な限り冷暗所(直射日光の当たらないところ)に保管し、高温にならないように注意してください。
- 充填作業
攪拌後、速やかに充填してください。
(充填時、流動性が悪い場合は作業を中断し、新しい材料を準備してください)

4)設置後の取扱いについて



- ・蓋の縁は、機械加工によって鋭角になっています。素手で扱くと怪我をする恐れがありますので、必ず手袋を着用してください。
- ・蓋を閉める際は、蓋・受枠の勾配受面を清掃し、土砂等の異物を除去してください。
蓋・受枠の勾配受面に異物が介在しているとがたつきの原因となり、蓋が飛散する恐れがあります。